

わり算の筆算のしかた

ステップ 0 / 8 はじめに読もう

	2	9
23	6	8
		2

1 わり算の筆算は「たてる → かける → ひく → おろす」のくり返し

	2	9
23	6	8
	4	6
	2	2
	2	0
	1	5

① たてる

② かける

③ ひく ④ おろす

② かける

③ ひく

① たてる → ② かける → ③ ひく → ④ おろす

682 ÷ 23 の筆算。

はじめに $68 \div 23 \rightarrow$ 商 2 を十の位にたてる。

$23 \times 2 = 46$ 、 $68 - 46 = 22$ 、2 をおろして 222。

$222 \div 23 \rightarrow$ 商 9 を一の位にたてる。

$23 \times 9 = 207$ 、 $222 - 207 = 15$ 。答えは 29あまり15。

2 商の見当 ... わる数を近い何十とみる

$84 \div 21 \rightarrow$ 21 を 20 とみて $80 \div 20$

$\rightarrow 8 \div 2 = 4 \rightarrow$ 商の見当は 4

わられる数は十の位までの数を使う（84なら8、3けたの222なら22）。

$222 \div 23 \rightarrow$ 23 を 20 とみて $22 \div 2 = 11$

$\rightarrow$ 1つの位にたつ商は9まで $\rightarrow$ 9 から試す

見当が10 以上になったら、9 をたてて 試す。

3 商（仮商）を直す2つのサイン

かけた答えがひけない $\rightarrow$ 1 小さく

$68 \div 23$: 見当 3 $\rightarrow 23 \times 3 = 69$

69 は 68 より大きくて ひけない $\rightarrow$ 2 に直す

ひいた答えがわる数と同じか 大きい $\rightarrow$ 1 大きく

$85 \div 17$: 見当 4 $\rightarrow 85 - 68 = 17$

17 は わる数 17 と同じ $\rightarrow$ 5 に直す

見当をつけて はじめに たてる 商を 「仮商（かりの商）」という。かけた答えは ひく前に 上の数と、ひいた答えは わる数と くらべる。

4 商は 何の位から たつ？

$384 \div 32 \rightarrow$ 上の2けた 38 は 32 より大きい

$\rightarrow$ 商は 十の位 から（商は2けた）

$156 \div 26 \rightarrow$ 上の2けた 15 は 26 より小さい

$\rightarrow$ 商は 一の位 から（ $156 \div 26$ を考える）

5 商に 0 がたつ / 答えの たしかめ

	3	0
24	7	2
	7	2
		8

0 を わすれずに

あまり

$728 \div 24$: $72 \div 24 = 3$ 。8 をおろすと、8 は 24 より小さいので 商の一の位に 0 を書く（0 をかける計算は書かなくてよい）。答えは 30あまり8。

たしかめ：わる数 $\times$ 商 + あまり = わられる数

$24 \times 30 + 8 = 728$ ✓ あまりは わる数より 小さい ✓

おわったら ○ をつけよう ○ できた！ ○ もういちど！